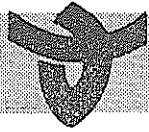


THE KŌHŌ NANKOKU

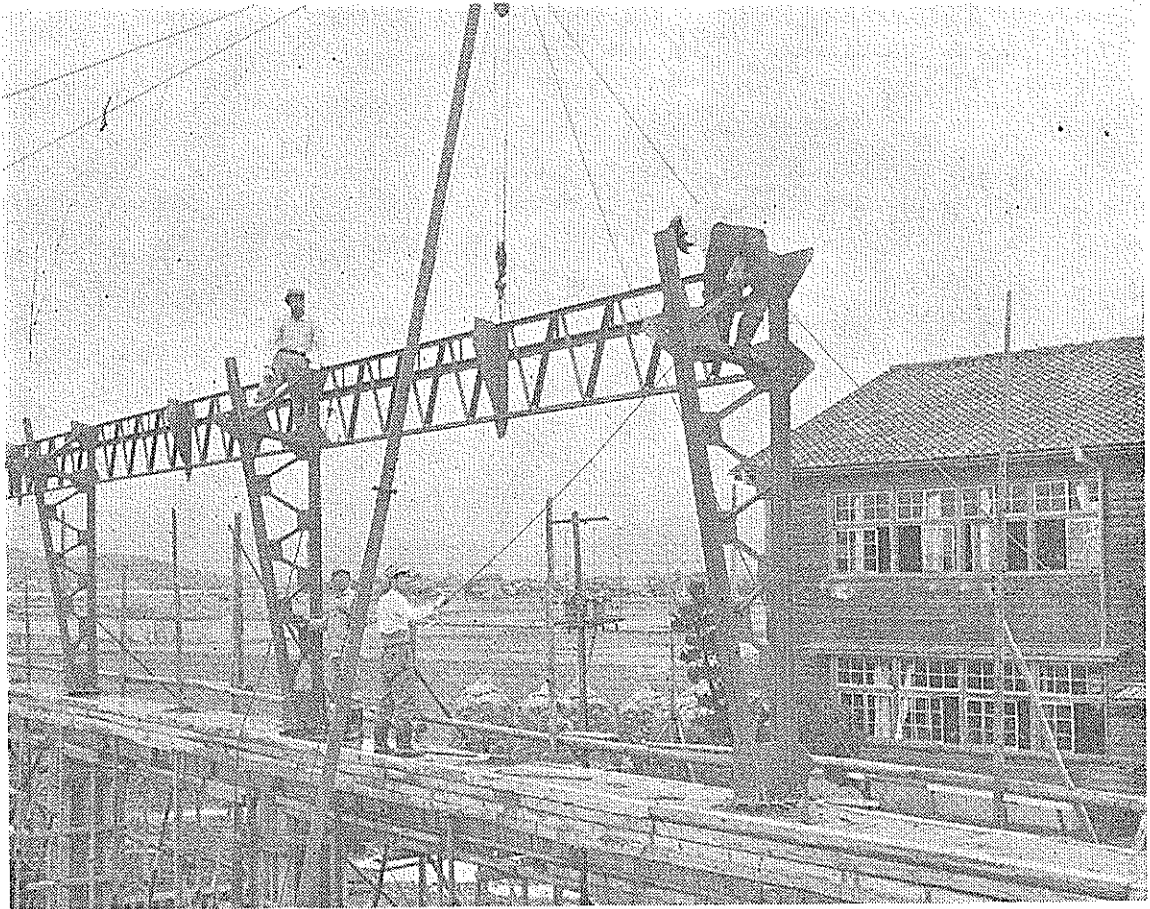


南国時報

第51号

昭和39年1月20日

編集発行
 南国市広報委員会
 事務所
 高知県南国市役所内
 (電 2111)
 印刷 川北印刷 K K
 (電 2379)



「建設」 赤字だといわれている市ではあるが、建設の槌音はあそここでこだましている。隣保館、大衆浴場、市営住宅などが昨年手がけられ、ここ香南中学にも、屋内体育館の骨格が浮び上がってきた。

とである。▼国は、大都市周辺の豊かな市町村を基準に、いろいろの行政をしくむ結果から、乏しい市町村は、いやが上にも乏しい財政となってくる。市民税のただし書による課税も乏しい故に行なってきたものだが、国は国民所得が伸びているから、本文方式によっても減収にならないと、いう見解をとっているといわれている。貧乏原のしかも乏しい財政のもとにある市町村のあり方は、赤字への道がいつまでもつきない、それを突き破ることは、市民と市政担当者の信念と責任にあらう。



予算であらう。市民税の本文方式による課税での市税の減収、煙草消費税の減額など、市の財政には手痛い処置がなされたこ

市の予算も六億を越した。赤字解消が急がれているが、建設のつち音はまだまだたえない。それはそれとしても、市の台所はいま一番のピンチに立っている。伸びに伸びた予算は、37年度の最終予算額にくらべ、はやくも一億円近く上廻り、赤字解消に赤ランプがともされていく。▼最終の追加予算に対し、市民や、各課の要望がいろいろ出されてくることだらう。しかし、その財源はなく、追加することはむづかしいといわれているそれよりも苦しいのは来年度の予算であらう。市